

IV 所見

各担任からの報告を見ると、第1学年に関して、評価C(あまりできなかった)以下の評価がもう少し出てもおかしくないのでは、と思われる。清掃体制がとれるまでに必要以上に時間を要し、作業そのものにも時間がかかっている状況がよくみられる。このあたり、今後も粘り強い現場指導が必要である。ただ、評価D(まったくできなかった)の評価がゼロであった。中学時代、ほとんど掃除をしなかった生徒もいることを思えば、この数か月間で意識の変化が表れてきていることは事実であろう。

第2学年は修学旅行があったせい、十分な継続指導ができず目標が達成したとはいえない。特に項目(3)(日々の清掃において隅々まで目を配り計画的に実施することができたか)については、細かな配慮を必要とするが、まだまだ指導半ば、ということであろう。ただ、一方では、項目(5)(お手洗いにおいて、スリッパを出船型に揃えることができたか)において、3学年中、もっとも良い評価となっている。気配りができる面はしっかり持っており、そのあたりをうまく引き出してやれるような指導が望まれる。

第3学年はクラス間にむらがある。最高学年として、すべてにA評価(大変よくできた)を期待したいところだが、評価Cがあるのが残念である。学校生活全般について「完成」していかなければならない時期であり、より一層の努力を願いたい。

全学年に共通することであるが、清掃時、いまだに机を引きずる生徒がいる。また、半ズボンで作業にあたり、ブラウスの裾を出したままの生徒も見かける。公共物を大切にす観点から、また安全の観点からも、まず、これらの事を今一度見直し、きちんと守らせることが必要である。

